

お得な気分で株主優待制度 を活用しよう！

平成 24 年 9 月作成



株主優待制度をご存知でしょうか？株式投資と聞くと悪いイメージを持たれている人も少なくないかもしれません。バブル時代に大損した人には嫌な思い出でしょうか。

しかしこの不景気で低金利時代、銀行預金も利息が少なく、何か楽しい手軽な資産運用方法はないかと考えたときにこの「株主優待制度」に思い至りました。現在では 3 万円程度で購入できる銘柄も多いです。自宅のパソコンで簡単に取引でき、手数料も昔に比べ安くなっています。少額投資であれば手数料無料の証券会社もあります。気軽に数万円から株式投資ができますので、余剰資金の活用方法として十分検討に値すると思います。

さて、**株主優待とは企業の株主への利益還元の一環**として行われるもので、配当金とは別に様々なサービスを提供してくれます。ただし、すべての企業で実施しているわけではなく、内容が変更又は廃止されることも多々あります。2000 年以降導入する企業が増えて、今では**上場企業の 30%近くが実施**しています。優待品は、**食品やお米、自社取扱製品、割引券、グルメ券、クオカード、図書カード等**さまざまなものがあります。

また、株式投資は配当金についても銀行の金利より高利回りのものが多いですが、株価はあくまで市場で決定されるため、銀行預金と違い**【元本が保証されない】**点に注意が必要です。私の保有株式も含み損を抱えてしまっているものも多数あります。

優待目的であれば、余剰資金の範囲で運用することはもちろん、自分なりにルールを決めて運用することが必要です。そこで私が実行しているルールをいくつかご紹介します。

- ① 投資金額の**総額上限を決める**（総額で〇〇円とか、1年で〇〇円のような決め方があります。投資額の半分くらいはどぶに捨てても良いくらいの覚悟で金額を決めています）
- ② **1単元**（株主優待が受け取れる株式数）**の投資金額の上限を決める**（高額な銘柄ほど株価の変動幅が大きいので損も得も大きくなりやすく、その分リスクも大きい）
- ③ 特定の業種へ**集中投資はしない**（特定の業界が不況になると保有株のすべてが値下がりするリスクが高い）

そのほかにも色々とルールを決めて株式投資を行っている人は多いと思いますが、大事なことは**「自分で決めたルールを安易に逸脱しない」**と言うことです。私の傾向として、将来の値上がりを考えて購入した銘柄ほど株価が値下がりしたものが多いです。また、うっかり投資上限金額を超えて注文してしまうこともありました。

最後に私が保有している銘柄をいくつかご紹介したいと思います（価格は最低単元基準）。

コード	銘柄	権利確定日	優待内容(詳細は各社のHP等でご確認ください)	H24.8.17株価	購入額	配当金
2810	ハウス食品	3月末日・9月末日	自社グループ製品詰め合わせ	132,000	133,600	2,800
7962	キングジム	6月20日	100株以上 2,500円相当の自社またはグループ会社商品 1,000株以上 5,000円相当の自社またはグループ会社商品	62,000	70,200	1,400
2702	日本マクドナルドホールディングス	12月末日・6月末日	優待食事券 1冊にバーガー類、サイドメニュー、飲物、3種類の商品の無料引換券が1冊になったシート6枚	221,800	174,000	3,000
9830	トラスコ中山	3月末日	自社プライベート・ブランド商品を中心としたアイテムの中から選択 100株以上 5,000ポイント贈呈 5,000ポイント商品	154,400	109,400	3,450
9978	文教堂グループホールディングス	8月末日・2月末日	100株以上 5%割引の優待カード1枚 1,000株以上 7%割引の優待カード1枚 10,000株以上 10%割引の優待カード1枚	19,200	19,200	0

見てのとおり損したり得したり色々です。配当金無しの銘柄もあります。

※ このコラムは株式投資を勧めるものではありません。優待目的とはいえ、あくまで株式投資ですので、元本が保証されないことを十分理解の上、ご自身の判断で行ってください。